

## 学部の教育目的・目標および3つのポリシー

### <スポーツ科学部スポーツ科学科>

#### 教育研究上の目的および教育目標

本大学スポーツ科学部は、スポーツ科学の学際的視点にもとづく理論と実践に関する教育研究活動を通じて広い国際的視野を持ち実践的な知識と技能を備え、創造力と行動力を発揮して理想の未来を創る人材を育成することを目的とする。

この目的のため、自他や社会における課題を複合的な視点から捉え、その解決に向けて取り組むことを通して、たくましく生きる力を育成することを教育目標とする。

#### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

山梨学院大学では、『たくましく生きる力』を育成すること」を達成するために、学生が以下の能力を修得することを大学の学位授与方針とする。

全学 DP	ディプロマ・ポリシー
DP 1	<p><b>【実践的な知識・技能】</b></p> <p>①スポーツ科学の学際的知識をもとに幅広い教養を修得し、社会を複眼的に捉えることができる（把握する力）。</p> <p>②スポーツの文化的価値の理解と言語スキルの習得を基盤とし、情報通信技術（ICT）等を活用しながら様々な事象に対して論理的・批判的・創造的に思考し、判断することができる（考え抜く力）。</p> <p><b>【創造力と行動力】</b></p> <p>③スポーツの社会的意義を学んで多様な価値観を受容し、他者を尊重して協働する態度を身に付け、高い倫理観を備えることができる（協調する力）。</p> <p>④実体験を通じて獲得したスポーツの実践力を活かし、主体的に自身の成長と社会の持続的発展に寄与しようとするすることができる（挑戦する力）。</p> <p>⑤スポーツ科学を通じて得た知見を国内外に発信し、あらゆるフィールドにおける課題の解決に活かすことができる（行動する力）。</p>
DP 2	多様な背景を持つ人たちと、母語や母語以外の言語で、目的に応じた意思疎通ができる。
DP 3	自ら目標を設定し、達成するまでやり抜こうとする姿勢を持つ。
DP 4	自己を理解し、他者との良好な関係性を構築しながら、自らの思考と行動を決定できる。

## 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

山梨学院大学では、学位授与方針に基づき、以下のとおり教育課程を編成・実施する。

カリキュラム・ポリシー	
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学部専攻科目においては、スポーツ科学と隣接領域に関する実践的な知識・技能の活用能力を学ぶ。また、実技・演習系科目では、各競技や各分野の実技・実践を通じて、創造力・行動力・指導力を身につける。</li> <li>2. 学部専攻科目以外においては、各科目群の履修を通じて、全学 DP に掲げられた能力を身につける。</li> </ol>
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツ科学と隣接領域の科目においては、講義によって知識・技能を伝授するだけでなく、知識・技能の活用能力を育成するためにアクティブラーニング手法を用いた授業を実施する。</li> <li>2. 実技・演習系科目においては、各競技や各分野の実践を通じて、創造力・行動力・指導力を育成するために、実践型学習を実施する。</li> </ol>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツ科学と隣接領域の科目においては、知識・技能の定着を測るだけでなく、知識・技能の活用能力をパフォーマンスで評価する。</li> <li>2. 実技・演習系科目では、実行過程における行動評価と指導の成果に対するパフォーマンス評価を行う。</li> <li>3. 各授業の評価基準はシラバスと授業ルーブリックによって定める。</li> <li>4. 卒業判定は、スポーツ科学部履修規程に定められた基準によって行う。</li> </ol>

## 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

山梨学院大学では、学位授与方針に照らして、次のような意欲と能力を持つ学生を受け入れる。

アドミッション・ポリシー	
<p>スポーツ科学部で求める人物は、ルールやマナーを尊重し、「大学生活をとおして幅広い教養と豊かな人間性を身に付けたいと願っている人」、「スポーツを行うこと、見ること、支えること、教えることなどに興味・関心がある人」を前提とする。</p>	
基礎的な知識技能	<p>大学での学修で必要となる基礎的・基本的学力、運動能力を備えている人</p>

思考力・判断力・ 表現力等の能力	スポーツや体育、健康に関わる今日的な課題を多角的に捉え、判断し、表現することができる人
主体性・多様性・ 協働性	周囲と協働しながら、以下に示す課題を達成しようとする人 ①授業やスポーツクラブの活動をとおして、競技力や運動能力をさらに高めること。 ②授業やスポーツクラブの活動をとおして、スポーツ科学の知と技（指導能力、研究能力、科学的サポート能力、マネジメント能力など）を実践的に身に付けること。 ③大学生活で得た学修成果を、国内外のさまざまなスポーツ関連分野において活かすこと。